

平成 24 年 1 月 14 日 (土)

東京フォーラム

於：湯島聖堂

中斎塾 東京フォーラム

平成 24 年 第 1 回講話

明けましておめでとう御座います。本年もよろしくお願い致します。

お寒い中お出で戴き有難うございます。

「寒いな」と思って来られた方と、「寒いけれども今日は楽しい」と思って歩いて来られた方とでは、気持ちの持ち方によって、寒さの受け止め方もだいぶ変わるだろうと思います。

今日の竹岡さんの素読は良かったです。朝方に毎日素読をする先生方は、素読をする  
と声の調子が馴染んできて自分の気持ちを感情移入しながら、素読が出来ると言います。  
竹岡さんにも、その兆しを感じました。竹岡さんの素読を聞いていて、竹岡さんの友人  
である三浦雄一郎さんを思い出しました。

今日の朝日新聞に大きく書いてありましたが、三浦雄一郎さんが 65 歳の時にメタボ  
で高脂血症、肥満、高血圧、不整脈と生活習慣病になったとあります。何故そんなにな  
ったのかと思いを考えていたら、自分の人生の目標が一段落したので、食べたい物を食べ  
たいだけ食べて、寝たいだけ寝るという自堕落な生活を送っていたら、あっという間に  
生活習慣病になったそうです。これではいけないと思い、もう一度山に登ることを決心  
し、70 歳の時に 101 歳で現役スキーヤーの父親と一緒にエベレスト山へ登り、75 歳で  
二回目のエベレスト山に登り、今度は 80 歳で三度山に登る。エベレストを三回登るの  
は凄いです、65 歳の時の生活習慣病から脱すると云う意欲も凄まじい。

恒例の質問の前に、皆様にお考え頂く話をひとつ。

駅に行き、階段やエスカレーターがある。迷わずエスカレーターに行くか、それとも  
階段で行くか？それからエスカレーターがなく階段だとアンラッキーだと思ってしまう  
か？または逆にラッキーだと思うか？どうでしょうか。

ここら辺の考えかたによって人生の生き方が違うなと思います。

木内孝さんを思い出しますが、階段があると二段上りをし、それから降りる時は二  
段下がりをする。これが出来なくなったら現役引退だと御本人は言っておられました。

上りが持久心を養い、下りが瞬発力を養うという事ですが、実行するのは中々難しい  
事です。

今年に入ってから、嘘を付かなかった方？

リップサービスを含めて、相手に対して良いなと思うのは範疇に入らない。自分自身  
の私利私欲の為に嘘をつくのはちょっと考える。

今年に入ってから良い一日、楽しい一日、嬉しい一日が続いていると思っている方？...ちょっとは首をかしげますが、大体は続いていますか？

年の初めですので皆様にお聞きしますが、「今年はどうしてもやりたい」と、心の底から今年一年はこれをやりたいと思う目標をお持ちの方？

どうしてもやりたいと思うものがあると、そちらを向いて何か手を打たなければならないという気持ちが動きます。

今年一年でこういう事が出来たら良いなと願望がおありの方？

どうしてもやりたいと思うものと、これが出来たら良いなと思うものがあつたらば、今年はずっと素晴らしい一年になると思います。

今年壬辰(みずのえたつ)という年で、理想を実現しよう努力する年まわり。その中でハッと自覚する年、ハッと思うチャンスに恵まれる年です。

辰年の辰をどのように理解するか、原義からいえば辰は大蛤の蜃気楼です。色々やりたいと思う事が霧散霧消してゆく年まわりですけれど、ハッと気が付くことが出来る人は着実に前に進む事が出来る。そのハッと気が付く時に、何かどうしてもやりたいと思う事があればあるほど、ハッと気が付きます。

ご夫婦であれば、相手の良い所または自分の良い所にハッと気が付く年。ハッとどこかで何かに気が付く、その様な年まわりだと思って下さい。私はそのように進めようと思いますので、御参考までに。

今年に入って、湯島聖堂で大林組常務 浦さんのスカイツリーについての話がありました。

私は東武電車を良く乗るものですから、何故このような会社が仕事を取れたのだろうと不思議に思い、また色々疑問があつたので話を聞きに行きました。

常務の話だと、大林組はスカイツリーの仕事を強烈に受注したいと思っており、受注した後は絶対事故を起こしたくないと強烈に思ったそうです。この強烈に思うというのが、大事でして、先ほどの質問にもありますが、強烈に思うものがあると人間の動き方が変わるなと思います。

話を聞いていて、工事中にボルト 1 本でも下に落としたら大惨事になるので、絶対に落とせないが、これはどうすればよいかと考え、鉛筆 1 本まで身体に結びつけて作業をしていたそうです。

3月11日の大地震の時は相当揺れたそうです。第一展望台の高さが365メートルで、東京タワーの333メートルを抜いています。そこにクレーンがあり、そのクレーンには耐震装置が付いていたそうですが、スカイツリー全体には耐震装置が付いていなかったそうで、かなり揺れたそうです。その時のビデオを見たのですが、揺れている時に平気で立っている人と、怖くてうつ伏せになって全然動けない人と極端に分かれていまし

た。でも、絶対事故を起こしたくないという思いが、あれだけの揺れの中、普通は何か落ちようものが何も落ちず無事故で、誰も怪我をしなく工事が出来るのはラッキーだったし、それだけの事前準備をしていたからとの話がありました。

その一連の話の中で、どうして東武がスカイツリーの仕事を取れたのか聞いたかったので、話が終わった後、ライバルはどうなのかと聞いたら、東武がどうしてもその仕事を取りたいと云う熱意を周囲に伝え、土地提供等色々と執念で取ったのだと思いました。執念のなせる業です。少し東武という会社も変わってくるのかなと思いました。

## 紹介書籍

曾野綾子さんの本は、どれを読んでもお勧めですが、たまたま今日は『生活の中の愛国心』をお持ちしました。曾野さんはいつも辛口の事を書きますが、実に面白い。

この方の本を読んでいきますと、自分自身の使命・テーマが、貧困や宗教心、心の安らぎ。そういうものを自然と追い求める様になり、それは小さい時の躰から生まれてきている。どうしても僻地の中での貧困というものを考え、愛国心というのを考える。そうすると動かざるを得なくなって各地に出掛ける。

曾野綾子さんは目が見えなくなった時期があり、失明したら作家を断念せざるしかないという気持ちになって、この先のことを思い考えていたが、ご本人の指は不思議な指で、人様の体を触るとどこか「つぼ」が分かる。作家廃業になったら、按摩になって暮らしていこうと思ったそうです。幸い良い医者に出会い眼鏡をかけなくても見える様になったそうです。

良いお医者さんに出会うというのも、日頃から良い方と縁を結ぶようにしていれば、良い医者にも出会えると私は信じています。

## 論語 子罕第九

【13】<sup>し きゅう い</sup>子 九夷に居らんと欲す。<sup>ある</sup>或ひと曰く、<sup>い</sup>陋しきこと<sup>これ い か</sup>之を如何にせんと。<sup>し い</sup>子曰く、

<sup>くんし</sup>君子 <sup>これ</sup>之に居らば、<sup>なん</sup>何の<sup>い</sup>陋しきことか<sup>こ</sup>之れ有らんと。

孔子が言うには、九夷というのは中国本土から見た未開地で野蛮人の土地として考えていた。朝鮮、満州、日本この辺りが九夷です。或る人が言うには、九夷は中国本土から比べて賤しく、そこに居るという事は、どうしたらよいか。孔子が言うには、君子が九夷に居ても問題ではない。素晴らしい人物がひとり、そのむさ苦しい所、または風俗が乱れた所にいると、その素晴らしい人物は周りを感化していくので問題はない。そのようにここはお読み下さい。

論語の解釈の仕方は現代において考え、自分自身のこと置き換えて考えるとした場合、さて自分自身の感化力はどの程度あるか考える。まだまだだと思ったら自分の感化

力をあげる努力をして下さい。

自分が人様に何かして差し上げて、一生懸命手塩にかけていければ、人も良くなるという風に読むと良いでしょう。自分の感化力、能力で周りの人のレベルが上がったなと思った時に、自分のレベル・判断力が上がったとお考え下さい。

【14】子曰く、吾衛<sup>しいわ</sup>自り<sup>われ</sup>呂<sup>えいよ</sup>に反<sup>る</sup>り、然<sup>かえ</sup>る後<sup>しか</sup> 楽<sup>のち</sup>正<sup>がくだ</sup>しく、雅<sup>がしょう</sup>頌<sup>おのおの</sup> 各<sup>そ</sup> 其<sup>ところ</sup>の所得<sup>え</sup>たり。

孔子が衛と云う国から故郷の魯に帰った時は69歳でした。帰った時に古典音楽が混乱していたので、元通りに直した。孔子が後半このような動きをして後世に影響を与えました。

自分のなすべき事、または使命をどこかで感得し体得をして実行していった。

私共も自分のやるべき事、なすべき事は何かとハッと気が付けば、素晴らしい動きができます。自分自身の使命を何も体得できなければ、ちょっとがっかりしてしまう人生になってしまう。

【15】子曰く、出<sup>しいわ</sup>でては 則<sup>い</sup>ち公卿<sup>すなわ</sup>に事<sup>こうけい</sup>え、入<sup>つか</sup>りては 則<sup>い</sup>ち父兄<sup>すなわ</sup>に事<sup>ふけい</sup>え、喪<sup>つか</sup>の事<sup>そう</sup>は敢<sup>こと</sup>あえ

て勉<sup>つち</sup>めずんばあらず、酒<sup>しゅこん</sup>困<sup>な</sup>を為<sup>なに</sup>さず。何<sup>われ</sup>か我<sup>あ</sup>に有<sup>あ</sup>らんや。

孔子が言うには、朝廷に出る時、身分の高い人達に誠心誠意仕える。家庭においては父兄に仕えて、妻子の面倒をみる。葬式も一所懸命に務めるし、酔っ払いもしない。孔子にとってこのような道徳は何でもない事だと。

酔っ払わないという事ひとつとっても、これは大したものです。

【16】子<sup>し</sup> 川<sup>かわ</sup>の上<sup>ほとり</sup>に在<sup>あ</sup>りて曰<sup>いわ</sup>く、逝<sup>ゆ</sup>く者<sup>もの</sup>は斯<sup>か</sup>くの如<sup>ごと</sup>きかな。昼<sup>ちゅうや</sup>夜<sup>お</sup>を舍<sup>あ</sup>かずと。

孔子が川岸の上に立って愚痴をこぼしている所です。自分は思った通りに世の中を生きていく事ができなかった。不遇のうちに歳をとってしまった。昼夜休まず川の流は進んでゆき停滞はしていない。私は知らず知らずのうちに歳をとってしまったという慨嘆を漏らしていると私は捉えました。

【17】子曰く、吾<sup>しいわ</sup> 未<sup>われ</sup>だ徳<sup>いま</sup>を好<sup>とく</sup>むこと、色<sup>この</sup>を好<sup>いろ</sup>むが如<sup>この</sup>くなる者<sup>ごと</sup>を見<sup>もの</sup>ざるなり。

孔子が言うには、女性を愛するが如く徳の高い人を好む人を見た事がない。美人と有徳者がいる。どちらに行きますかと問えば、みな美人の方に行くと思います。私も美人の方に行ってしまうと思うので、これは致し方がないと思います。

【18】 子曰く、譬<sup>し</sup>えば山<sup>を</sup>を為<sup>る</sup>が如<sup>し</sup>。未<sup>だ</sup>成<sup>ら</sup>ざる<sup>こ</sup>こと一<sup>篋</sup>なるも、止<sup>む</sup>は吾<sup>が</sup>

止<sup>む</sup>なり。譬<sup>え</sup>ば地<sup>を</sup>を平<sup>ら</sup>かにする<sup>が</sup>如<sup>し</sup>。一<sup>篋</sup>を覆<sup>す</sup>と雖<sup>も</sup>、進<sup>む</sup>は吾<sup>が</sup>往<sup>く</sup>なり。

学者が学問を一生懸命に身につけようと思ひ努力をしている。学者が途中で学問を止めてしまうのは、今までの修行が無駄になってしまう。途中で学問を止めるのは、「九仞の功一篋にかく」という諺で考えて下さい。山が完成しないのは、一籠の土を運ばない、自分の意志で止めてしまから山が出来ない。例えば、始めて山をつくるのも平地に土を盛るようなもの。一籠の土は少ないけれど、自分で進めるから山が出来ていく。強制されない、自分の意志で始めたのなら、止めない事。やろうと思ったら長く続けてゆく事が大事。

この辺は、野田さんを思い出しました。野田さんは良い事ばかり言っていました、本質がみえない。私達も自分の意志で進めるのが良い。

【19】 子曰く、之<sup>に</sup>語<sup>ら</sup>せて情<sup>ら</sup>ざる<sup>者</sup>は、其<sup>れ</sup>回<sup>る</sup>なるか。

顔回は素晴らしいと言っています。孔子が色々と講話をする時、教えている時にちっとも飽きずに聞いている者は顔回だけ。孔子が色々と教訓を言いますが、意味が分かる、その背景が分かる。先生の言う事が自分なりに大体分かっているから、飽きずにその先を考えて聞いているから、飽きない。飽きるというのは先生の話の背景が見えない、分らないという事でつまらないとなります。ここら辺は予習・復習をやみましょうということに繋がります。なかなか予習・復習というのは難しいですが、されると一気に実力が進みます。

【20】 子<sup>が</sup>顔淵<sup>を</sup>を謂<sup>い</sup>て曰<sup>く</sup>、惜<sup>し</sup>いかな。吾<sup>が</sup>其<sup>の</sup>進<sup>む</sup>を見る<sup>なり</sup>。未<sup>だ</sup>其<sup>の</sup>止<sup>む</sup>

を見<sup>る</sup>なりと。

孔子が顔回について言う。学問が進歩しているのが日に日に見える。途中で学問を止めてしまったというのを見た事がない。

孔子が70歳の時に顔回は32歳で亡くなりました。顔回が亡くなって孔子は、天は私を滅ぼすものだと思ひ嘆いた。子弟の間でこれほど絆が強いのも中々いないと感じます。

自分の友人でそのように絆が深い人がいれば素晴らしい事だと思います。子弟、友人、家族の絆が深い人は良いと思います。私は時々亡くなった人達の事を思い出します。フ

ッと思いだし、あの人だったらこれはどう思うか、又はどう動くだろうかと云う風に、亡くなった人でもフッと思いだす友人がいるのは有り難い事だと思います。

【21】子曰く、<sup>しいわ</sup>苗にして<sup>なえ</sup>秀でざる<sup>ひい</sup>者有る<sup>ものあ</sup>かな。秀でて<sup>ひい</sup>実らざる<sup>みの</sup>者有る<sup>ものあ</sup>かな。

若い時に秀才で、大人になった時に学問を大成させることが出来ない者は多い。若い時に素晴らしく、また中年になって素晴らしい人だと思っけていても、最終的には実らないし、人格が完成しない者もいる。そうならないように努力をしましょう。

【22】子曰く、<sup>しいわ</sup>後世<sup>こうせいおそ</sup>畏る<sup>いづく</sup>べし。焉<sup>らいしゃ</sup>んぞ<sup>いま</sup>来者の<sup>し</sup>今に<sup>し</sup>如かざる<sup>し</sup>を知ら<sup>しじゅうごじゅう</sup>んや。四五十に

して<sup>き</sup>聞こ<sup>な</sup>ゆること<sup>こ</sup>無<sup>また</sup>きは、<sup>おそ</sup>斯れ亦<sup>た</sup>畏るるに<sup>た</sup>足らざるのみ。

孔子が言うには、自分より後に生まれた人は皆素晴らしい人物が多い。これから世に出て来る人達が私を追い越さないとな誰が言えようか。現在の自分以上になる人は沢山いる。四十、五十になって世間に知られてなくても、あまり気にする事はない。言い方を変えると、四十、五十になって世間に知られていないのなら、少し馬力を掛けた方が良いのではとお考え下さい。

### 時事問題

今日の新聞をみたら、野田改造内閣スタートとありました。感じた事は、何で、岡田さんはイオンのにおいを出さないのかなというのが気になりました。イオンの株主総会に私は毎年出席するのですが、段々イオンの会長発言が変化してきています。売上でイトーヨーカドーグループを越したと、自分が一番一番と思っていると頭が高くなってきて発言の中身も変わってきます。特に昨年の株主総会の発言が凄まじく変わったなと感じました。凄まじくというのは、前は謙虚でしたが、会社が大きくなるにつれて気分が大きくなったので態度も大きく変わってきたと思うのです。

今回の内閣で、二人ほど引っかかる人がいました。平野さんと田中直樹さん。田中直樹さんは71歳ですが、田中真紀子さんは幾つでしたっけ？

田中真紀子さんが外務大臣の時に、小泉さんから「貴女は大臣として心構えが成っていないから、佐藤一斎の『重職心得箇条』を読んで、大臣の心構えを身につけなさい」と言われていたが、田中真紀子さんは「こんな本を読む必要はない」と云うエピソードが頭にあり、亭主を尻に敷いているのだろうと思っていました。

ご主人は温厚な人柄で、普天間に関する話も一切しない。今回大臣になってテレビのインタビューをみていたら、「消費税は増税当たり前」という発言をしていて、ちょっ

と違うのではと思いました。ここら辺の人事は致し方がないのかと思って改造内閣はスタートしたのだと思いました。

ただ根本的に違うと思ったのは、手順を間違えている。

身を削るというのをしていない。「身を削ります」と明記したとは言うけれども、国会議員を減らさないし、官僚のお給料も減らさない。やりますと言ったけれども実際は実行していないのだから、これはおかしい。

自分達の身を削って、間違いなく実行したというのが分かってから、消費税増税という順序でなければならない。ここで順序を間違えているから、やはり途中で腰砕けになるだろうと感じます。

年齢でいけば平野さんは65歳、岡田さんは58歳。ここら辺はいい所ですが、輿石さんが最高齢75歳です。政治家で4~50歳の人達はどんどん出て来るべきだが、意外と民主党の若い人達が代表になったり、然るべきポストについたりしているの、干支の壬辰(みずのえたつ)の考えからいけば、悪くはない。

若い政治家がポストについて色々な理想論を打ち上げる年まわりと理解していますので、ただ途中で腰砕けになるのは残念ですが...悪くはない年まわりです。

年まわりから考えて見ても、今回の改造内閣は期待を幾つもさせると感じます。期待をするけれども、本質、大局、歴史で眺めて見ると、本質からいけば、なすべき手順を間違えているので、やはり狙ったとこまでいかないと感じます。もう少し詰めると、民主党も自民党もそうですが、日本の国家社会を悪い方向に引っ張ってゆく政権だから、これは致しかたがないなと思います。ゆっくりゆっくり落ちてゆくと感じています。

### 大局から見ると...

判断基準を間違えないようにというのは、必ず本質と照らし合わせをして、今の動き、世の中の動向を見る。

年の初めですから、日本の大局だけを見るのではなく、世界全体を眺めて大局を考える。そうすると、世界のトップリーダーたちもどんどん変わる年なので、変わらないにしても、変わるべく洗礼を浴びせられるのが見えてきます。

アメリカではオバマさんが再選されるかどうか分からない。ロシアもプーチンさんは自業自得で落ちてゆくのではないかと感じます。ミャンマーは政治犯590人ぐらいの人を釈放して、スーチーさんが国会に出ると云うことですから、違った形でミャンマーは新しく変わってゆく兆しが出ている。ユーロ圏は、今日の新聞でいけば、アメリカの格付け会社がフランス、ドイツ、スペイン、イタリアの国債を落とすと書いています。中国は良さそうに見えますが、中国国内もいつバブルが弾けるかとの最中ですから、各国を眺めて見て政治は相当揺れ動き混乱し、経済はみな落ちてゆく。伸び上がろうとしているのは発展途上国ですから、日本はもっと発展途上国に眼を向けねばならないでしょう。ただ、日本も政治が混乱していてどうにもならない状況です。野田政権が一時的

に良さそうに見えているけれども、腰砕けです。

本質は日本も砕けるし、世界全体も混乱して悪くなっている。本質論から眺めてそう見えます。

大局的に眺めて見ると、良い要素と悪い要素で比べれば、悪い要素の方が多い。

歴史的に見れば、どんどん世界は落ちてゆき、アメリカが牽引してゆく役割が持たない。木内信胤先生が20年前にアメリカは物凄い勢いで転落すると言われました。20年経ってそれが誰でも分かるようになって来たというのが現在ですから、歴史的にみて、西洋文明はこれからも落ちてゆく。それに代わるのは東洋文明でしょう。

そのような歴史の転換期ですから、転換期というのは良いも悪いも、混濁の世に、混乱の世になる。

今年はどうにもならない、ドロドロだと自覚して毎日過ごしてゆく。先程申し上げましたが、何か自分の大事な物、一生懸命身につけようと思っているもの、そういう動きをしていく中で必ずどこかでハッとする気が付きがあり、それは学問をしてゆく中でも気が付くでしょう。

### **事上磨練**

事情磨練と知行合一というのは、陽明学のものの考え方で核になっています。事上磨練は、日々行う仕事を一生懸命やることによって自分自身を磨く。

王陽明は、朱子学は机上の学問が中心だけれども、机の上でハッと気が付くのも悪くはないが、やはり人間というものは行動の中からハッと気がつくもの、自己を磨くものが大事だと主張をしました。行動の中から悟るというのを主張し、陽明学を確立しました。その中で事上磨練は仕事を一生懸命やる事によって自分自身を磨いてゆき、さらに人間の深みを増し、そういう境地に達するという考え方です。

学問学問とことさら構えなくても、日々の自分の仕事の中で磨かれてゆくのだと信じて動けば良い。

今の世の中を眺めてゆく時に自分自身の仕事を通じて、本質を見る。自分自身の仕事を通じて大局を、歴史を見る。そうすると判断を下す時、そう間違いはしない。

### **切磋琢磨**

渋沢論語の中に切磋琢磨が解説されていますが、宝石で考えて説明を致します。

切は「きる」という事ですが、例えば薪を切る時に、大きく振りかぶっても上手に割れない。原石を見つけて、切る目を見つけないと綺麗に取り出せる時とそうでない時があるだろうと思います。

宝石の最初は眼力を養って、刃にあてるべき所であてる。人物を見抜く時に、この人物は素晴らしいという所を見つけ応援をしていけば良い。

宝石と人間が向上してゆくところで併せてご説明しますと、どのような動機であれ会社を飛び出し独立をする。独立をするのが「切」

「磋」は、原石を粗いヤスリで研ぐが、まだまだ売り物にならない。会社でいけば独立をした社長が必死になってめっちゃくちゃになって働く。社長をやっている時にはそのような思いがどこかにあります。

「琢」は、これは砥石で宝石を研いでゆく。砥石で研いで段々宝石の形になってきて流通ルートに乗せられるが、完全に宝石としての価値を最大限に出してはいない。

会社の社長でゆけば、何故こんなに会社が儲かるのだろう、順調に行くのだろうと思いい、地元の色々な会に入り、周りからも凄い素晴らしいなと思われるが、非常に誘惑も多い。

「磨」は磨くですから、金剛石で磨く、宝石として超一流品になる。本来持っている輝きを全て出し尽くすような宝石になった。

会社も順調にまわって、こんなに順調にいいのかと思うぐらい良い循環をしてゆくのが切磋琢磨の磨です。

現代の政治家も経済人もひっくり返して切磋琢磨のどこに位置しているのかをみる。

本質・大局・歴史の観点から見て、特に本質の部分で切磋琢磨を活用すると良いと思います。どうぞ御自分に照らし合わせて、切磋琢磨の判断基準で見直しをしてお考え下さい。